

◎良質米麦の出荷目標



- 一等米 100%
- 整粒歩合80%以上確保
- 精米蛋白質含有率6.8%以下
- 仕上がり水分14.5~15.0%
- 全量種子更新



- 一等麦 100%
- 低アミロ麦皆無
- DON暫定基準値1.1ppm以下でできるだけ低いこと
- 赤かび粒混入限度 0.0%
- 異臭麦皆無
- 十分な入れ目の確保
- 全量種子更新

◎農産物検査事業の方針

- ◆公平、公正、迅速に行う。
- ◆必要な技術的能力の維持・向上に努める。
- ◆客観性・公平性から他部門からの影響排除。
- ◆制度の適正な運営に寄与する。



発行所

一般社団法人 北海道農産協会

〒060-0004 札幌市中央区北4条西1丁目 共済ビル5階 TEL 011-232-6495 FAX 011-232-3673

【総務部】E-mail somu@hokkaido-nosan.or.jp

【業務部】E-mail gyomu@hokkaido-nosan.or.jp

【検査部】E-mail kensa@hokkaido-nosan.or.jp

北海道米分析センター

〒069-0365 岩見沢市上幌向町216の2 TEL 0126-26-1264 FAX 0126-26-5872

E-mail bunsekic@hokkaido-nosan.or.jp

<https://hokkaido-nosan.or.jp>

稲作

令和2年度 水稲作柄現地調査報告書



技術情報誌「農産技術だより」はホームページでもご覧になれます。
<https://hokkaido-nosan.or.jp>



一般社団法人

北海道農産協会

Hokkaido Agricultural Association

売れる米を 低コストで 安定生産

めざそう 小麦の 品質向上

適正な 農産物検査の 実施



稲作

令和2年度 水稻作柄現地調査報告書

令和2年9月
一般社団法人 北海道農産協会

【調査月日】 令和2年9月1日(火)～2日(水)

【調査先】

◎道南・道央南部班：北斗市、道南農業試験場（北斗市）、厚沢部町、今金町、蘭越町、厚真町、長沼町、美唄市、当別町

◎道北・道央北部班：新十津川町、深川市、留萌市、名寄市、士別市、上川農業試験場（比布町）、旭川市、東川町、中富良野町、中央農業試験場水田農業部（岩見沢市）
（各市町の調査圃場は、現地優決圃場、各農業改良普及センター作況圃等）

【参加人数】 約40名（部分参加を含む）

【総合検討会】 令和2年9月2日(水) 優良米開発センター2F

本年度の標記調査は、新型コロナウイルス感染対策を受け、調査人数や箇所数を縮小した形で実施いたしました。コロナ禍が未だ収束を見ない中、調査の実施にあたり、道農政部・各地の農業改良普及センター・道総研農業試験場・地区米麦改良協会等、関係機関の皆様にご協力・ご配慮を頂きましたことを厚くお礼申し上げます。

本年度の気象経過は、各地区とも4～5月は気温変動があったものの、苗の生育は概ね順調で乾物重はやや軽めですが、移植に問題ない苗素質を確保しました。

移植の始まっていた5月18～22日頃は、最低気温が低下し降霜や強風も加わったことで、道北を中心に植傷みや活着の遅れが見えましたが、その後の好天で初期生育は良好に推移しました。また6月後半から7月上旬にかけては記録的な日照不足もあり、全道的に莖数確保が抑制される傾向もみられました。それでも、幼穂形成期以後は高温多照で経過したため、一穂籾数の増加や不稔歩合が低下し稔実籾数が確保されたことで、平年並からそれ以上の収量が期待できそうです。

8月に入ってから高温で経過しており、品質においてもアミロースの低下が見込まれます。

以下については本調査で得られた各地区の作柄概況、総合検討会で指摘された今後の対応、および次年度に向けた留意事項等について報告します。

各地区の生育状況

【渡島地区（北斗市）】

- ・やや若苗気味な苗質や早植えでの植傷みの影響は少なく、活着や初期生育も良好で、幼穂形成期・出穂期は平年並となりました。
- ・穂数が多いため総籾数が多くなりましたが、登熟は順調で成熟期は2～3日早まりそうです。
- ・8月末の強風で一部直播ほ場で倒伏が見られます。



写真1 作柄調査の様子（北斗市優決ほ場）

【檜山南部地区（厚沢部町）】

- ・ 苗質は平年並を確保、活着や初期生育も良好に推移していましたが、7月に入り分けつ発生は緩慢となりました。
- ・ 穂数は少ないものの、稔実歩合はやや高めのため平年並に近い稔実籾数の確保が見込まれています。成熟期は2日ほど早まりそうです。



写真2 作柄調査の様子
(厚沢部町優決ほ場)

【檜山北部地区（今金町）】

- ・ 苗は出芽が遅れて若苗となり、一部で移植時の植傷みもみられました。その後は好天で活着・分けつ発生は良好です。初期生育は旺盛ですが、遅れ穂の発生が見られます。
- ・ 生育ステージは進んでいますが、穂数や一穂籾数が多めで総籾数は増加しており、葉色もやや濃い様子です。



写真3 作柄調査の様子 (今金町優決ほ場)

【後志地区（蘭越町）】

- ・ 活着や初期生育は平年並に推移も、6月後半の寡照により分けつ発生は抑制傾向となりました。

- ・ 出穂期は2日早く登熟も順調で、成熟期は3日程度早まりそうです。
- ・ 穂数は少なめですが、一穂籾数がやや多く総籾数は平年並が見込まれます。



写真4 籾熟度の調査 (蘭越町一般ほ場)

【胆振地区（厚真町）】

- ・ 移植開始頃からの低温・降霜により、活着は停滞しましたが、その後回復し初期茎数は平年を上回りました。
- ・ 幼穂形成期・出穂期とも平年より早く、登熟も良好で成熟期も早まる見込みです。
- ・ 穂数が多く、総籾数は平年を上回ります。



写真5 「ななつぼし」の登熟状況
(厚真町優決ほ場)

【石狩地区（当別町）】

- ・ 低温の影響で移植後の植傷みが生じたものの、回復は早く分けつの発生・初期生育は良好でした。
- ・ 幼穂形成期・出穂期は平年並～やや早く、登熟の状況から9/20頃からの収穫が見込まれています。
- ・ 穂数・一穂籾数や稔実歩合は平年並で、稔実籾数もほぼ平年並となりました。



写真 6 籾熟度の調査 (当別町優決ほ場)



写真 8 作柄調査の様子 (美唄市優決ほ場)

【空知南部地区 (長沼町)】

- ・ 移植開始頃に低温の影響を受けましたが、その後は好天で初期生育は良好に転じ、茎数は平年を上回りました。
- ・ 幼穂形成期・出穂期とも平年並で、登熟も良好です。
- ・ 稈長や穂長は短めですが、穂数・一穂籾数は平年並で稔実籾数は平年並です。



写真 7 作柄調査の様子 (長沼町優決ほ場)

【空知中央地区 (美唄市)】

- ・ 移植頃に低温の影響を受け、活着に時間を要したものの、その後回復し初期茎数は平年を上回りました。
- ・ 幼穂形成期・出穂期とも平年並で、登熟は良好です。
- ・ 稈長や穂長が短めで穂数もやや少なめですが、稔実歩合はやや高いため、稔実籾数は平年並の見込みです。
- ・ 乾田直播栽培では 8 月末の強雨により一部のほ場で倒伏が見られます。

【空知中・北地区 (新十津川町・深川市)】

- ・ 苗質は並～やや小さめで移植時に植傷みが見られました。活着や分けつ発生は良好でしたが、6 月下旬の低温・日照不足で生育は一時停滞気味となりました。
- ・ 出穂は平年並～やや早めで、遅れ穂はなく穂揃いは良好です。
- ・ 総籾数は平年並～やや多めになっており、生育量の多い一部直播ほ場で倒伏が見えます。



写真 9 「ゆめぴりか」の登熟状況 (新十津川町優決ほ場)



写真10 「ななつぼし」の登熟状況
(深川市優決ほ場)

【留萌地区（留萌市）】

- ・ 苗乾物重の低下と移植前後の低温により、活着にはやや時間を要し、その後再び低温寡照の影響を受け初期茎数は著しく少なくなりました。
- ・ ただ幼穂形成期以降は好天により、出穂期は平年並まで回復し、登熟も良好です。
- ・ 穂数は少ないですが、稔実歩合が高く一穂粒数も増加したため、稔実粒数は平年並以上を確保しています。



写真11 「ななつぼし」の登熟状況
(留萌市一般ほ場)

【上川北部地区（名寄市、士別市）】

- ・ 移植の早いほ場で低温・降霜による植傷みが見られ、また6月下旬の低温・日照不足

もあり、茎数確保は低調でした。

- ・ 7月に入り、名寄市周辺では茎数が急激に増加し、総粒数は多くなりましたが、士別市周辺では茎数が増えず、総粒数はやや少ない目です。
- ・ 出穂期は平年並～やや早めですが、登熟は最低気温の急激な低下や総粒数の多いほ場で、やや緩慢に推移しています。



写真12 作柄調査の様子
(名寄市作況ほ場)



写真13 「きらら397」の登熟状況
(士別市優決ほ場)

【上川中央部（旭川市）】

- ・ 移植時の低温・降霜による植傷みで、生育は停滞しましたが、その後回復しました。
- ・ 幼穂形成期・出穂期はやや早～平年並です



写真14 「ななつぼし」と「ゆめぴりか」の登熟状況
(旭川市優決ほ場)

が、穂揃日数はやや長めとなりました。

- ・ 稈長は短く穂数もやや不足気味ですが、一穂粒数が多く、総粒数は平年並以上を確保しています。
- ・ 8月の高温で登熟は良好に推移、少雨に際しては間断灌漑を実施していました。

【上川南部地区（東川町、中富良野町）】

- ・ 移植時の低温や強風で植傷みが見られ、その後東川町周辺での回復は早かったものの、中富良野町周辺では初期茎数の確保は低調となりました。
- ・ 幼穂形成期・出穂期は平年並～やや遅くなりましたが、現在の登熟は良好です。
- ・ 穂数はやや少な目なもの一穂粒数は多く、不稔が少ないことで、稈実粒数は平年並以上となりました。



写真15 作柄調査の様子

(東川町優決ほ場)



写真16 「おぼろづき」の登熟状況

(中富良野町一般ほ場)

総合検討会での協議

- 1 両班による調査終了後、道農政部（上川農試駐在）李家上席普及指導員を座長とする総合検討会を開催し、本調査のまとめと課題整理を行いました。
- 2 全道的な傾向としては、苗の生育は概ね順調で移植時苗素質は平年並～やや小さめですが、却って早期異常出穂の抑制や穂揃いの良化に結びつきました。

移植の始まっていた5月18～22日頃は、最低気温が低下し降霜や強風も加わったことで、道北を中心に植傷みや活着の遅れがありました。その後の好天で初期生育は良好に推移しています。6月後半から7月上旬にかけては記録的な日照不足もあり、全道的に茎数が不足する傾向にありました。中でも移植後の植傷みが深刻だった留萌や上川北部・南部では茎数不足が一時深刻な状況でした。それでも幼穂形成期以降は、高温・多照で経過したため、一穂粒数が増加傾向を示し、稈実歩合も平年並となったことから、稈実粒数は各地で平年並からそれ以上を確保できる見込みとなっています。ただ一部、品種間差やほ場差はあるように思われます。

また、8月以降も高温で経過したため成熟期は2～3日程度早まりそうで、今年も平年作以上は期待できそうです。

- 3 食味成分では、出穂後の気温が高く、アミロースの低下が見込まれます。穂揃いが



写真17 総合検討会で作柄総括

(優良米開発C)

良好であることや籾数が平年並に確保できたこと、熟色のきれいな地区が多いことを鑑みると、昨年を上回る食味が期待されます。

- 4 今後の技術対策については高温登熟年となったため、①胴割粒や白未熟粒の発生が懸念されるため、確実に玄米判定を行って米質を確認したうえで、可能な限り適期刈り取りに努めること。②急激な乾燥は胴割を助長するので、二段乾燥を実施し適切な調製を行うこと。③籾の熟色がきれいに仕上がっているので、葉色に惑わされること

なく玄米判定による整粒割合により、刈り取り時期を判断することが必須であるとの見解が示されました。

- 5 令和3年産に向けては、収穫後の技術対策として乾燥が進んだほ場では稲わらの秋すき込みや心土破碎の実施、湿田においては表面水排除の早期実施などが確認されました。また、低タンパク米の安定生産には土壌診断の実施による地力、乾土効果の把握が重要であることは従前の通りです

<終>

小麦づくり12カ条

1. 排水対策、土壌改良、有機物施用等を行い、ほ場の土壌環境を良くしよう。
2. 連作を避け、土壌病害の軽減と地力の維持・増進を図るために輪作体系を確立しよう。
3. 地域性、圃場条件、品種特性等を十分に配慮し、適正に施肥しよう。
4. 適期播種を行い、葉数確保と養分蓄積を図り、越冬に備えよう。
5. 雪腐病防除のため、種子消毒・薬剤防除・融雪促進を徹底しよう。
6. 収量・品質向上のため、春播小麦の播種は可能な限り早くしよう。
7. 病害虫の防除は、適正薬剤で適期に、効果的に行い、特に赤かび病防除は徹底しよう。
8. 適期収穫を行うとともに、穂発芽粒・赤かび粒混入を防ぐための別刈りを徹底しよう。
9. 適正な乾燥調製を行い、低アミロ麦・異臭麦の発生等による品質劣化を防ごう。
10. DON低減に向け、適正な受け入れ・乾燥・調製・保管の実施を徹底しよう。
11. 麦稈は、圃場外に搬出し、完熟堆肥にして圃場に還元しよう。
12. 小麦跡地には、緑肥を栽培し、地力の増進と雑草発生防止に努めよう。